

であつたが、そのお蔭で裏町に等しき都會の醜き裏面を長時間見せつけられる物憂さを忘れることが出来た。

「グラスゴ」エチンバラ市に等しく見物に幾日を通つて来た。大學がある。公園がある。博物館がある。郊外の町がある。寺院がある。如何にこの大都會の見物を短き期日にすませば、これ亦旅人にとつて大問題である。居心地のよいホテルを見出すことが、船中から既に心に懸る。船を棄て、先づ「大北行鐵道」(The Great Northern Railway)のステーション・ホテルに車を走らす。玄關子は室が空いてゐると云ふ。帳場の女は空いて居ないと云ふ。玄關子に聞いたと云へば、女は急に忙がはしげな様子をし何を云つても、「ソリ」(Sorry)の一語を繰り返すばかりである。このホテルに宿が無ければ他の宿を紹介して呉れと依頼する。それでも只一言「ソリ・ツ・メニ」(Sorry, too many)と云つてとり合はないやむを得ず停車場の巡査に聞く。二三電話で問合せして呉れた。「何れも満員だ附近に「節制ホテル」(Temperance Hotel)があるがそれなら空部屋があるだらう」と云ふ。教へられるまゝに行く。入口が既にホテルらしくない。往來から直に狭い暗い階段を登るのである。余の來意を聞いた女中らしい婦人は部屋はあるが女將が不在だから暫く待て」と云ふ。時刻は早く移り行く。町の電燈に火がついてから既に時餘を經へてゐる。一縷の望をつないで物暗き一室で女將の歸りを待つてゐる。中々女將らしき者が姿を現はさない。一時間近くも待たされたが少しも出て來ない。然し壁に設けられた小

窓から誰かが覗く様子が度々する。止むを得ずその窓口から返事をうながす。「女將がことわれと云ひました。理由はお前が煙草を吸ふので指先が汚れて居る。眞の節制家でないから」と女中は如何にも氣毒相に返事をする。禁酒禁煙の勵行には恐れ入つた。テムペランス・ホテルに止宿する資格が無いと云はればそれ迄であるが、それなら一時間ばかりも待たして置く必要はないと無念がつたが仕方がない。

タグシイの運轉手に小錢をつかまして適當なる處に案内せよと命じた。他の鐵道の停車場であるセント・イーノツグス・ステーション・ホテル (St Enock's Station Hotel) に案内された。こゝでは室があると云ふ。帳場で待つてゐると巡査が來て、余が拂へて居た鞆付き蝙蝠傘の鞆を拂つて見せよと云ふ。兎器でなく蝙蝠傘であることを知つて「オーライト」と云ひ破顔一笑の後に立つた。グラスゴの宿で翻弄された憂目と「ソリ」の一語を繰り返した帳場の婦人の顔は今日も猶眼前にちらつてゐる。

新刊紹介

○支那歴史地理研究續集

小川琢治著 昭和四年八月
弘文堂發行 定價五圓

小川博士は昨秋支那歴史地理研究初集を出したが、今度こゝに續集を出版されて、其研究の成果を大成されたのである。菊版六百頁の大冊である、第一篇に北支那の先秦蕃族を論じ逸周書王會の性質を明にし、春秋時代戎狄雜居の勢を明にせ

られ、第二篇穆天子傳の性質をのべて、周穆王の西征と當時の東西の交通を明にしられた。この篇添付するに黄河水源問題がある。古代の伏流説と、元代踏査の實蹟をのべられた。

第三篇には阡陌と井田を論じ、羅馬人の都邑及び田野區劃法が詳説され、周代の阡陌及井田、孟子の井地制がのべてある。この篇は拙著尺度線考の地割論の足らざる所を補ふものである。予は讀者のこの書を参照せられんことを祈るの念が切である。先生の文章と文字とは六ヶ敷いといふことであるがこれを讀みこなすやうでなくては、東洋の人文地理は明にされぬであらうことを附言する。(藤田)

○讀史叢錄

昭和四年八月 内藤虎治郎著
弘文館發行 定價五圓

本書は内藤博士が、講學の餘暇に藝文や史林に執筆されたものを蒐録したものである。收むる所は二十八篇、その中人文地理に關したものが多く、第一篇卑陽考は當時の學界を驚かしたものであり倭而土國考と共に我上古を學ぶもの、必藏の文字である。新羅眞興王巡境碑、明東北疆域辨誤や、清朝姓氏考などは、我國の根の國であらうと考へらるゝ、東西の東北地方を學ぶもの、參考であり、蒙古附國の傳説の如き我國の神話と關係が深いのもその証左である。本書には猶王亥及續王亥の考説がある、これによつて夏殷人の命名及古傳説が論じてある、これも地名研究家の見逃してはならぬ文字である。地理學家朱思本によつて、支那古代地圖學の發達をしり、樂浪遺蹟の集具によつて、古代の交通を證し、倭人石

考によつて十二支神像とその起源を同じくするを知るが如き本書から學ぶべきことは多い。人文地理學者にその閱覽をすゝめる。(藤田)

○等高曲線白地圖及説明書

本間不二男著
古今書院發行
定價七十五錢

信濃教育會小縣上田部會が本間理學士に依頼して、中部地圖及地質圖をつくり始めたのは五年以前のことであつた、小野三正氏が永い間その製圖に努力したことも多きかつた。出來上つて見ると、その等高曲線の白地圖が、いかにも美はしいので、これによつて地形の説明を學ぶもの、乘にしたのが本書である。輪廻地形の殘りや、斷層地形、山の地形、谷の地形、火山地形といつたものが各其特色をしめしてある部分によつていかに之を讀解すべきか、之によつていかに地理が理會されるかといふことが詳密に示めてある、予は本書によつて中學校などで地形を教ふる際の手引にされることの盛んにならんことを祈つて、その閱讀をすゝめる。猶右出來上りの地圖が極めて廉價で同書店から頒布されてゐることは讀者の既に知れる通りである。(藤田)

新著即報

◎安房線建設概要 鐵道省 四月

◎史蹟名勝天然紀念物調査報告 第四輯(天然紀念物之部) 山梨縣 四月